

<学会トレーニング（静脈用ステント）>

1. 静脈血栓後症候群における静脈ステントの適応について誤っているものを、一つ選択してください

- a. 腸骨静脈閉塞を含む静脈血栓後症候群症例
- b. 腸骨静脈閉塞あるが大腿静脈にも病変がある。しかし大腿、大腿深静脈が開存している症例
- c. 腸骨静脈狭窄と側副血行の発達を認める症例
- d. 弾性ストッキング使用でも高度静脈跛行が残存して生活に支障がある症例
- e. 表在静脈の形態および弁不全の評価で、大伏在静脈に拡張と 0.5 秒以上の逆流時間があるが、表在静脈手術されていない静脈性潰瘍症例

2. 急性期深部静脈血栓症における静脈ステントの適応について誤っているものを、一つ選択してください

- a. 腸骨静脈閉塞を含む深部静脈血栓症
- b. 動脈虚血を伴う重症の深部静脈血栓症（有痛性青股腫、有痛性白股腫、静脈性壊疽）
- c. 抗凝固療法と下肢挙上あるいは圧迫療法などの適切な保存療法にても常時疼痛があり日常生活を著しく妨げる深部静脈血栓症（VCSS pain score 3）
- d. 血栓溶解療法や、吸引・破碎・摘除術後で腸骨静脈に血管内超音波検査などで確認された血流を阻害し再閉塞を起こす病変があること
- e. 急性深部静脈血栓症の血管内治療では、通常 90%以上の患者に静脈ステント留置が必要であった。

3. 静脈ステント留置で不適切なサイズはどれか

- a. 総腸骨静脈部 - ステントサイズ：径 14mm、長さ 120mm
- b. 総腸骨静脈部 - ステントサイズ：径 12mm、長さ 60mm
- c. 外腸骨静脈部 - ステントサイズ：径 12mm、長さ 120mm
- d. 外腸骨静脈部 - ステントサイズ：径 12mm、長さ 80mm
- e. 総大腿静脈部 - ステントサイズ：径 10mm、長さ 80mm

4. 静脈ステント留置部位として不適切なものはどれか

- a. 総腸骨静脈
- b. 総腸骨静脈、外腸骨静脈部
- c. 総腸骨静脈、外腸骨静脈、総大腿静脈部
- d. 外腸骨静脈部 総大腿静脈部
- e. 総大腿静脈、大腿静脈部

<学会トレーニング（静脈用ステント）（回答）>

1. 静脈血栓後症候群における静脈ステントの適応について誤っているものを、一つ選択してください

- a. 腸骨静脈閉塞を含む静脈血栓後症候群症例
- b. 腸骨静脈閉塞あるが大腿静脈にも病変がある。しかし大腿、大腿深静脈が開存している症例
- c. 腸骨静脈狭窄と側副血行の発達を認める症例
- d. 弾性ストッキング使用でも高度静脈跛行が残存して生活に支障がある症例
- e. 表在静脈の形態および弁不全の評価で、大伏在静脈に拡張と 0.5 秒以上の逆流時間があるが、表在静脈手術されていない静脈性潰瘍症例

正解 e

- a. 腸骨静脈閉塞を含む静脈血栓後症候群症例は適応である。腸骨静脈がなければ適応ではない
- b. 腸骨静脈閉塞あるが大腿静脈にも病変がある。しかし大腿、大腿深静脈が開存している症例は適応である。しかし大腿、大腿深静脈開存が両方なければ適応ではない、
- c. 腸骨静脈狭窄と側副血行の発達を認める症例は適応である。側副血行路がない場合は症候、圧迫療法の効果を十分に確認して適応を決定する。
- d. 弾性ストッキング使用でも高度静脈跛行が残存して生活に支障がある症例は適応である。 e. 「表在静脈の形態および弁不全の評価がされており、表在静脈に適切な治療が行われていること」が条件である。

2. 急性期深部静脈血栓症における静脈ステントの適応について誤っているものを、一つ選択してください

- a. 腸骨静脈閉塞を含む深部静脈血栓症
- b. 動脈虚血を伴う重症の深部静脈血栓症（有痛性青股腫、有痛性白股腫、静脈性壊疽）
- c. 抗凝固療法と下肢挙上あるいは圧迫療法などの適切な保存療法にても常時疼痛があり日常生活を著しく妨げる深部静脈血栓症（VCSS pain score 3）
- f. 血栓溶解療法や、吸引・破碎・摘除術後で腸骨静脈に血管内超音波検査などで確認された血流を阻害し再閉塞を起こす病変があること
- g. 急性深部静脈血栓症の血管内治療では、通常 90%以上の患者に静脈ステント留置が必要であった。

正解 e

- e. 急性深部静脈血栓症の血管内治療では静脈ステントは通常 40－50%の患者に静脈ステントが必要であった。（ATTACT Trial 39%、CLOUT Registry 46.5%）

3. 静脈ステント留置で不適切なサイズはどれか

- a. 総腸骨静脈部 – ステントサイズ：径 14mm、長さ 120mm
- b. 総腸骨静脈部 – ステントサイズ：径 12mm、長さ 60mm
- c. 外腸骨静脈部 – ステントサイズ：径 12mm、長さ 120mm
- d. 外腸骨静脈部 – ステントサイズ：径 12mm、長さ 80mm
- e. 総大腿静脈部 – ステントサイズ：径 10mm、長さ 80mm

正解

- b. 総腸骨静脈部 – ステントサイズ：径 12mm、長さ 60mm
径 14 mm以上、60 mm以下で Stent Migration が多いため

4. 静脈ステント留置部位として不適切なものはどれか

- a. 総腸骨静脈
- b. 総腸骨静脈、外腸骨静脈部
- c. 総腸骨静脈、外腸骨静脈、総大腿静脈部
- d. 外腸骨静脈部 総大腿静脈部
- e. 総大腿静脈、大腿静脈部

正解

- e ステントは腸骨静脈留置が基本で、病変がある場合は総大腿静脈までは延長可能である